



文責 校長 山本 智文

「認めること」でエネルギーをふりそそぐ

子どもたちに対して、大人が無意識に発する「～はダメ」「～してはいけない」等、多くの否定的な言葉が使われることがあります。もちろん、大人が子どもたちに対して、人としての責任や社会のルールを教え、生きていくための訓練を行うことは重要なかわりです。しかし、その一方で、「認める」「励ます」「ほめる」といった“プラスのエネルギー”になる言葉も、同じくらい重要なアプローチであるのです。ただし、一つ気を付けたいのは、こうした場合、「とにかく何でもほめればよい」という錯覚に陥りやすい、ということです。

馬に好物のニンジンを見せて走らせるように、「ほめる」をニンジンにはめ込んで、ほめること自体をご褒美にしていくと、やがて子どもたちは、ほめてもらうだけに懸命になり、ついには、「ほめてもらえない自分には価値がない」と思い込んでしまうようになりかねないということです。

【七色のほめ言葉(NG/OK会話例)】

では、どのようなことに注意すればよいのでしょうか？

まず、ほめることそのものよりも、「ほめ方」が大切であることに視点を置いてみます。ここでは、ベーシックな「ほめ方」のNG会話とOK会話を紹介してみます。

◆NG会話◆

教師「山本くんは絵がうまいねえ。」

これは、よく使われる一言であり、「どこがいけないの？」と思われる方も多いでしょう。ここで、気を付けたいのが、主語が「山本くんは」というように、「あなたは～である」というメッセージになっている点です。これは「YOU(ユウ)メッセージ」と呼ばれているもので、とくに上下関係が明確な場合、言われた方は「批判や評価されている」と受け取ってしまうのです。また、「うまい」は、「うまい⇨へた」、つまり「正しい⇨誤っている」のように、優劣をつけることになりかねないのです。言い手にはその意図はなくても、受け取る側にはそう取られやすいので、注意が必要なワードなのです。このような場合は、次のように使ってみてはどうでしょうか。

◇OK会話◇

教師「先生は、山本くんの絵、ステキだと思うな。まるで空を飛んでいるような気分になるよ。」

違いがおわかりでしょうか。「YOUメッセージ」であった最初のワードに対して、「私は～と思う」という「I(アイ)メッセージ」にして伝えている点です。教師の主観的な表現なので、相手も受け取りやすく、また、教師が味方であると感じさせる効果もあるのです。

では、次に、「テストの結果」や「作品のでき」がよかった時、どのようなほめ方があるのでしょうか？そのバリエーションを見ていきましょう。

〈この続きは、1月号でお話したいと思います。〉

このように我々教師は、「認めること」を極めることを意識し、日々、子どもたちと接していくことがとても重要になってくると考えています。



小中合同避難訓練～自分の命を自分で守るために～

11月2日（木）に、地震・津波を想定した第2回目の「小中合同避難訓練」を行いました。まず、地震発生後、第1避難場所である運動場に小中学生全員が集合しました。その後、津波がやってくることを想定して第2避難場所である「出会いの館」まで移動し、中学校長及び消防署の方々に講評をしていただきました。この訓練には、地域の方々も参加していただきました。児童生徒はこの訓練を通して「率先避難者」になることの意識を高めることができました。児童生徒が一体となって避難訓練を行うことで、災害時の避難場所・避難方法についてお互いに共通理解を図ることができています。また、この合同避難訓練を通して「自分の命は自分で守る！」という自助の意識が高まっていることを実感しているところです。次年度は、地域・保護者の方々を巻き込んだ合同避難訓練を企画していこうと考えています。その際には、ご理解とご協力のほどお願いいたします。



令和5年度 蒲刈小学校学習発表会

11月19日（日）に「令和5年度蒲刈小学校学習発表会」を開催しました。今年度は、諸事情により、蒲刈小学校体育館で行いました。

予想していた以上に来賓・地域・保護者の方々にご観覧していただき、職員一同大変感謝しております。子どもたちも多くの方々に自分たちの演技を観ていただき、これまでの練習の成果を十二分に発揮することができました。

子どもたちは、多くの方々に観ていただくので、出番前から表情がキリリと引き締まっていました。「成功させるぞ！」という学年の一体感も感じられました。毎日毎日、「本番の自分たちの姿」を意識し、みんなで力を合わせて、一人一人一生懸命に演じている姿はとても美しいと感じました。この学習発表会を通して子どもたちは、「友達と気持ちを合わせること」、「協力して取り組むこと」の大切さを学びました。そして、令和5年度の学習発表会をみんなで創り上げ、演じきった達成感、成就感を味わうことができました。この経験が、これからの生活や学習等の意欲につながっていくものと考えています。

私は教師を長くやってきて、つくづく思うことがあります。それは、「子どもたちはさまざまな行事を通して大きく成長していく」ということです。だからこそ、私たちは、子どもたちと真剣に行事と向き合っています。これからもさまざまな行事を通して、子どもたちの持てる力を最大限に発揮させ、「何事にも一生懸命にチャレンジする児童の育成」に向け尽力していきます。



中学生が本番前に参観してくれて、子どもたちに自分たちの思いを話してくれました。



1・2年生
「かさこじぞう」



3・4年生
「サーカスのライオン」



全校児童
「和太鼓『清流登り打ち』」



5・6年生
「落語①」



5・6年生
「落語②」



全児童
「合唱『ふるさと』」
「斉唱『校歌』」



三之瀬御本陣芸術文化館見学

12月1日(金)に、全校児童で「三之瀬御本陣芸術文化館」を見学しました。現在、三之瀬御本陣芸術文化館(以下、「御本陣」)では、今井眞正先生の特別展が開催されています。「土から生まれる命の輝き」と題して、今井先生の作品が展示されています。

「ふるさと学習」の一環として、全校児童で御本陣を訪れました。そしてなんと!この日のために今井眞正先生にもお越しいただき、先生直々に作品の解説をしていただきました!今井先生は、ヘラ削りの彫刻的手法による陶造形と、穴窯での高温焼成という表現方法を見出し、京焼のエッセンスに現代的な感覚を取り入れた独自の世界観を確立され、京焼に他の焼き物とは一味違う世界観を確立されました。下蒲刈島のシンボルである、白崎園のモニュメント「生・土・火・知・空・水-(せい-ど・か・ち・くう・すい-)」を2000年に制作された今井先生。島の子どもたちにとっては、自分たちが生まれた時から当たり前のようにあるものだけど、どうして作られたのか、先生はどのような気持ちで作られたのか...。子どもたちは、今井先生の作品に対する思いや願いに一生懸命耳を傾けていました。子どもたちにとってあまり縁のない「焼き物」ですが、本物に出会うことで、本物の話を聞くことで、一気に焼き物の世界に引き込まれていった子どもたちでした。代表児童によるお礼のあいさつの中で、「何となく眺めていたモニュメントでしたが、今井先生の話聞いて、どうしてモニュメントが置かれているのかがよく分かりました。」という言葉が印象に残りました。これから、子どもたちのモニュメントに対する見方が変わっていくことでしょう。

最後に、御本陣玄関前で、今井先生を囲んで記念写真を撮りました。子どもたちにとって、思い出の1ページとなったことでしょう。その後、子どもたちはスクールバスで「白崎園」へ移動し、実際にモニュメントを見学しました。

蒲刈小学校では、「ふるさと学習」に取り組んでいます。子どもたちに「ヒト」「モノ」「コト」に出会わせ、自分たちの生き方につなげていくことを目的として取り組んでいます。

今回も素敵な出会いをすることができました。今井先生に感謝です。

